

第7講 図書登録実習3

p.84-88

このコマで理解して欲しいこと

1. 一致／類似書誌レコードが総合目録データベースになく、参照ファイルにも使用できるレコードがない場合には、新規入力(オリジナル入力)を行う
2. 記述文法によってシステムがデータを認識するため、記述文法に沿ってデータを記述する必要がある

このコマの進め方

1. テキストによる説明
2. テキストの例題を全員で行う
3. 登録課題集を使った実習

<時間配分の目安>

	110分
テキストによる講義・実習	30分
課題集実習・解説	80分

説明のポイント

p.84	<p>書誌新規入力の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の業務では新規入力を行うことは少ないかもしれないが、新規入力をやってみることで、流用入力の便利さがわかる。 ● データの入力の際に記述文法を意識することが重要である。 ● テキスト p.16, p.61 または付録 1 (画面構成とフィールド) 等を使って図書書誌レコードを構成するフィールドを確認し、必須フィールド、リンク形成についてなどの要点をおさえておくこともよい。
p.85-88	<p>テキストの例題 6 を受講者一斉に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報源により、レコードの形を推測する。 2. 検索の結果、求めるレコードがヒットしなかった場合には、必ず他の検索キーでも検索してみて、本当に総合目録データベースにないか確認する必要があることを強調する。 3. 記述文法を確認しながら、データを入力する。 <p>付録 2 (データ記述文法) に沿って、記述文法を説明する。記述文法の見方がわかりにくいと感じる受講者が例年多いため、TR 等 (中位の書誌単位がある場合の PTBL の記述文法も効果的である) を例にとりて具体的に説明することが望ましい。</p> <p>クライアントによっては、TR、PTBL 等必ず記述文法でデータ要素を区切らなければならないフィールドを除き、記述文法での入力が不要なものもある (例: WebUIP)。受講者にも、業務を開始する際に自館のクライアントにて確認するように伝える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. TTLL, TXTL, TR, PUB が必須フィールドであることを説明する。 <p>リンク形成や登録時の確認やレコード ID を控えておくことについて、ここでも一般的な注意事項を繰り返す。</p>

登録課題集 課題42-50(p.86-103)使用

- 講習会の中で先に登録したデータが検索してヒットしてしまうので、実際とは異なるが、検索してもヒットしなかったという前提で実習するよう予告する。
- 登録課題集はこの時間中に行わず、自由演習の時間に回してもよい。
- 実習に入る前に、参照箇所を指示しておくこともよい。スキルアップには数をこなすことより、ひとつひとつ確実にを行うことが大切であり、各種参考資料を確認しつつ進めていくよう促す。
 - ◇ テキスト → 記述文法(p.116-), コード表抜粋(p.125)
 - ◇ 『目録情報の基準』(用意されている冊子またはWeb版) → ヨミ・分かちの部分
 - ◇ Web版『コーディングマニュアル』, 年号／西暦変換 等
 - ◇ 下敷き(クイックレファレンス)
- テキストの例題はこれまですべて和書の例なので、洋書の情報源の見方や記号の習慣等(下敷きに抜粋あり, 参照), 課題集からひとつ例をとってデモをしてから実習に入ると、洋書に慣れていない受講者が安心できる。
- なお、登録課題集の解答例では、実際には分類表や件名表を必要とするCLSやSHも記述している。これは、新規登録であっても、“入力しなくてよい”というわけではないため、教育的理由から記述しているものである。

課題 48 は統一書名典拠レコードとのリンクを行う。リンク先典拠レコードは教育用サーバに用意してあるので、著者名典拠レコードのリンク形成と同じ手順でリンク作業を行う。下記のサイト参照。

目録所在情報サービス>ドキュメント>CAT 関連マニュアル>和漢古書に関する取扱いおよび解説 9. 統一タイトルの取扱い(平成 23 年 12 月改訂)